

会議の名称	第6回パートナーシップのまちづくり推進会議
開催日時	平成29年12月15日(金) 午後6時30分～8時50分
開催場所	茅野市役所 8階大ホール
出席者	<p>【委員】 河西副会長、牛山副会長、長田副会長、義経委員、篠原委員、今井委員、山田委員、依田委員、八幡委員、小池委員、柳平委員、小澤委員、池上委員、鷹野原委員、藤森委員、楨原委員、矢崎委員、伊藤委員</p> <p>【市側】 柳平市長(会長)、樋口副市長、山田教育長、伊藤総務部長、柿澤企画部長、小池市民環境部長、竹内健康福祉部長、五味産業経済部長、牛山こども部長、篠原都市建設部長、平出生涯学習部長、北原議会事務局長、田中会計管理者</p> <p>【事務局】 田中パートナーシップのまちづくり推進課長、国枝コミュニティ推進係長、富澤コミュニティ推進係主任、貝瀬コミュニティ推進係主事、内山ちの地区コミュニティセンター所長、五味宮川地区コミュニティセンター所長、吉田米沢地区コミュニティセンター所長、木川豊平地区コミュニティセンター所長、矢嶋玉川地区コミュニティセンター所長、立木泉野地区コミュニティセンター所長、小池金沢地区コミュニティセンター所長、小平湖東地区コミュニティセンター所長、北澤北山地区コミュニティセンター所長、守屋中大塩地区コミュニティセンター所長、牛山市民活動センター長、小平企画財政課長、岩崎地域戦略課長、長田美サイクルセンター長、五味こども課長、田中男女共同参画担当、丸茂茅野市社会福祉協議会事務局長</p>
欠席者	野沢委員、嘉瀬委員、入倉委員、田村政之委員、田村一司委員、宮下委員、
発言者	協議内容・発言内容(概要)
会長	<p>司会進行 田中パートナーシップのまちづくり推進課長</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。今年もあとわずかとなりました。寒い年の瀬を迎えております。お忙しい中、お寒い中推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。皆様には7月の第1回以降それぞれ部会に分かれて議論していただきまして誠に感謝しております。そうした中でパートナーシップのまちづくりに対する想いであったり、考え方をまとめ・抽出をしていただきまして一定の方向性が見えてきたと感じるところであります。いかに信頼関係を築いて合意形成をしていくかが取り組みの基本になってくるし、それをどういう形で進めていくのがこれからの方向性になってくると思います。いずれにしても茅野市が取り組んでいるまちづくりは、他所に自慢ができる取り組みだと思っています。是非皆さんには忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。職員も出席者として今までになく発言をしてもらえるだろうと思います。それが目指すべきパートナーシップ、公民協働を押し進めていく力になるだろうと思います。今日の会議が力強く次につなげていけますことを期待しまして、ご挨拶とさせていただきます。なお、福島市民活動参与でございますが、諸事情のため今日は出席できません。皆様にくれぐれもよろしくということでございますので、どうぞよ</p>

	<p>ろしくお願いいたします。</p> <p>会長により進行</p>
会長	<p>それではお手元の会議次第に沿って進めていきたいと思います。まず3（1）パートナーシップのまちづくりの更なる充実に向けてということで、①から④と進めていきたいと思います。①各部会の検討経過についてということで、分野別部会、コミュニティ運協部会とありますが事務局より説明させていただきます。</p> <p>事務局（国枝コミュニティ推進係長）より説明</p>
会長	<p>ただ今説明をさせていただきました。これにつきまして③でさらに議論を進めていただきます。今の説明の中で確認をしておきたいこと等ございましたらご発言をお願いします。</p>
委員	<p>資料1が分野別部会、資料2がコミュニティ運協となっておりますが、1は最終的な合意形成ができていないということだと思います。2は形としてまとめになっていて、部会として合意形成ができていと認識してもよろしいでしょうか。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>コミュニティ運協ではそういう形で合意形成がとれているというところまで来ています。すべての方々からの意見はまだいただけていませんので今日の③で議論していただきたいと思います。</p>
委員	<p>先日の第5次総合計画の全体会議の中で、パートナーシップの部分についてはこの推進会議の内容を受けて第5次総合計画に盛り込むという説明がありました。しかし第2回の推進会議の中では第5次総合計画には盛り込むということはせずに検討を進めるという説明がありました。そのあたりの整合性がとれていないと思いますがどうでしょうか。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>この会議の中から出てきたエッセンスを盛り込みたいという思いは確かにあります。5次総でも素案として書き込みがされている部分がありますが、それは私どもで当り障りのない部分を書き込んでいるものです。全体の計画を見る中でパートナーシップのまちづくりが欠落した状態だと、見る方としても見づらいたいと思ひまして暫定的に入れてあります。</p>
会長	<p>最初の会議で質問が出てこれから議論していくとした中で、タイミング的に3月が期限の5次総のスタートに間に合わないということでした。議論を尽くしてからということはお話をお話をさせていただいたと思います。そのこととは違いますか。</p>
委員	<p>議事録によると第2回の冒頭のときに5次総とは切り離してやると言う説明がありました。その時に「そうなの？」という印象を受けました。間に合わないなら仕方がないと思いますが、その時に切り離すという説明を受けておきな</p>

	ら、5次総の全体会ではパートナーシップのまちづくりの内容を書き込むという説明があったので、整合性がとれていないと思いました。
会長	5次総の中で行政経営基本計画を進めていまして、その中にパートナーシップのまちづくりが入ってきます。その計画に組み込むという議論と、推進会議での議論は分けて考えるという意味ではないかと思います。課長、どうですか。
パートナーシップのまちづくり推進課長	その時の説明が不十分だった部分があると思います。
会長	いずれにしても大事な部分になってきますので、第5次のしくみづくりの中にはパートナーシップのまちづくりをどういう風に進めていくかという部分が位置付けられてきます。
小池市民環境部長	当時5次総に盛り込むのは時間的制約があり難しいのではないかという説明をしました。盛り込むことを前提として議論するという意味ではないという意味で、1回切り離しをするということを説明したつもりです。ここで議論したことを載せないという言い方をしたつもりはありません。載せるという前提にすると時間的制約が出てきてしまい議論がおろそかになるので、そうではなくしっかりと議論をしていただきたいという趣旨でした。
委員	推進会議で議論した内容で、5次総に載せることができる部分については、載せることができるという理解でよろしいでしょうか。
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	良いです。
会長	他にご発言はございませんか。
	(意見なし)
会長	それではそんなことも踏まえて③で議論していただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。 続きまして②茅野市パートナーシップのまちづくりへの想い(ビジョン)、市長が描く茅野市のビジョンということでお題をいただいていますので、私の方からお話をさせていただきたいと思います。 まちづくりに対する想いという大きく分けて2つあります。パートナーシップのまちづくりをしていくという想いと、パートナーシップの手法を使ってどういうまちを造っていくかという2つの切り口があると思います。前段のパートナーシップのまちづくりという部分ですが、かなり前からまちづくりをしていくには自助、共助、公助の3つの意識をしっかりと持って市民も行政も地域も取り組んでいかなければ良いまちはできないと思っています。自分のことは自分でやること、一緒にやること、公がしっかりとやること、そういうまちづくりをしていかなければなりません。簡単に言うとその共助の部分が協働のまちづくりであり、パートナーシップのまちづくりであると思っています。なぜそうい

う部分が必要かという、まちづくりへ市民に参画していただく、良いまちづくりをしていくということをお願いし前面に押し出していくということだと思っています。協働のまちづくりやパートナーシップのまちづくりはここで始まったことではないと思います。はるか昔から、例えば区の中のコミュニティでは協働のまちづくりをしてきましたし、区民同士のパートナーシップもあったのだらうと思います。区・自治会と行政の間でも、明治や昭和の時代から協働のまちづくりをしてきたと思います。意識的に市民にまちづくりに参画していただく象徴として、パートナーシップのまちづくりを前面に押し出してきたことは、前市長がまちづくりの手法としてしっかりと構築してくれてくれた結果だと思っています。その時の時流に合っていたし、それが出来ているから茅野市の市民力、地域力も上がってきていると思います。いわゆる第1ステージでは分野別市民活動団体の皆さんが我がこととしてまちの課題に取り組んでくれました。平成18年からは第2ステージが始まり、各地区にコミュニティ運営協議会が設立されました。その取り組みを面として地域全体に広げていく、より多くの市民を巻き込んでいく、分野別の取り組みを良い形で地域に縦糸、横糸の形で取り組んでいくという狙いがあったのだと思います。私は平成19年に市長になりました。第2ステージがスタートしたという時です。第2ステージで地域におけるパートナーシップをさらに浸透させていくことは難しいことだと思っていました。縁もあり私が市長に選ばれて、地域におけるパートナーシップのまちづくりをどう展開していくか、コミュニティ運営協議会をどう発展させていくかという大きな命題をいただきました。それから10年経って、運協が必要であることをより多くの方が認識してきたところだと思っています。そんなこともありまして、私の市政に取り組む思いは、市民プランにも書かせていただきましたが「みんなでつくるみんなの茅野市、市民総参加のまちづくり」ということを掲げさせていただきました。全ての皆さんにまちづくりに参画していただく、そういう環境または意識を持っていただきたい、そのことが茅野市がより元気になる源になるという想いで取り組んできたところです。市長になって運協の総会や市長と語る会で2年間くらい必ず口にしたことがあります。それは「不満と不平を言うよりも、進んで明かりをつけましょう」です。電気がついていなくて、暗いぞ、誰かつけてくれと言うのではなくて、暗かったら自分で明かりをつけようよ。もし電球が切れていたり、電気が来ていなかったら、行政がしっかりとそういった環境を作っていくかといけない。1つの象徴としてそんなことを話してきたことを今でも覚えています。それだけ多くの市民の皆さんにまちづくりに積極的に参画していただくことは大変なことだと思っています。分野別の皆さんとパートナーシップのまちづくりを始めて20年、各地区の運営協議会中心にまちづくりの第2ステージが始まって10年、そして、ここでゆいわく茅野が誕生しました。市民総参加の3本柱ができたと思っています。まさに市民総参加のまちづくりをしていける、していかなければならないという意味で皆さんにご苦労いただいてパートナーシップのまちづくりのふりかえりをいただいています。私としてもすっきりしつつあるという想いです。どんなパートナーシップのまちづくりがしたいのかと聞かれたときに、「みんなでつくるみんなの茅野市」と答えますし、それが私の想いであります。そこで何をしていかなければならないか、信頼関係、合意形成が必要、簡単そうで難しい、でも大事なことだと自分の中で意識しています。それでどんなまちにしたいのかという、この10年では市民プランが目指すまちの姿です。これは私にとっても市

民の皆さんにとっても同じだと思います。その中でも人づくりを大事にしました。それと環境都市、産業振興、安全安心なまちは特に意識した部分です。福祉でまちづくりは少しずつ進んできていますが、子どもに対しての取り組みをもう少しすっきりさせたいということで、こども部を設置しました。どんぐりプランについてはわかりやすく取り組んでいることと思います。福祉的な面での子育てと、教育面の一体化ができれば良いと思います。産業振興も大きなテーマでした。私が市長になってすぐにリーマンショックが起き、特に落ち込んでいる観光を何とかしなければならぬという想いで、今までになかった産業分野における計画の産業振興ビジョンをつくりました。それがこの10年、私の中で意識をしながら取り組んできたことです。当初市民プランを作るときには言いませんでしたが、茅野市の魅力をどう発信していくかということで、私は茅野市の宝である縄文をまちづくり人づくりに生かすことで、茅野市の特色あるまちを全国世界に発信していきたいとまちづくりを進めてきました。これからのまちづくりは第5次総合計画に示されていきます。特徴的なことはまち懇でも話をさせていただきました。やはり人口減少・少子高齢化の中で地域で支え合うしくみをつくることでまちの温かさ、豊かさが大きく変わってくると思います。産業振興ではまちの活力を失わない取り組みをしていかなければいけない。その具体例が公立化する諏訪理科大を活用できるかどうか。それから今進めている観光まちづくりを有効に機能させていけるかどうか、コワーキングスペースを活用させていけるかどうかです。ものづくりには取り組んでいかなければならないと思いますが、新しい切り口、新しいしくみをどう作っていくかだと思います。そして、3点目が教育だと思っています。私はまちづくりは人づくりだと思っていますので、子どもばかりではなく茅野市民がたくましく優しく夢のある人間となるようにしたいと思います。グローバル化、IT化する中で、先端の教育と縄文科を中心に人として忘れてはならないこと教えるよう取り組んでいきたいと思っています。そして4点目が安心安全なまちづくり、災害に強いまちづくりです。財政難で新しいことがなかなかできない中、今あるインフラをいかに使って安心安全なまちづくりするかということがあります。そしてもう一つがあらゆる主体による協働のまちづくりのしくみを構築していけるかどうか。この5つの視点がこれからの10年間で特に必要になってくるのではないかと。そういう想いで5次総の策定を皆さんとともにしていますし、できてからはしっかりとお伝えしたいと思います。そんな想いでまちづくりをしています。まち懇で話したことと被る部分もありますが、10年で取り組んできたこと、これから目指すこととお話しました。ご意見等ありましたらお寄せいただければと思います。拙い話ではありますが、ありがとうございました。

この後は意見交換となっております。今私が話したことについてでも良いですし、今思っていることをご発言いただければと思います。

委員

パートナーシップの手法を活かしたまちづくりをしたいということはわかりますが、手法を活かしてどういうまちをつくりたいのかもっと具体的に教えてもらえたらと思います。例えば縄文をキーワードにどんなまちにしたいのか、人づくりであればどういう人間を育てたいのか、安心安全なまちづくり・災害に強いまちづくりとはどういうものなのか。あたりを見回しても木を伐採して広い土地を作ったり、農薬や除草剤を使って環境を汚染したりする状況があるという話を耳にします。それが安心安全なまちにつながっているのかということ

考えると、子育てをしているお母さん方で不安に思っている方が多いです。私はラジオ番組で学校給食の紹介をしていますが、必ず出てくるのが各学校で子どもたちにどんな給食を出しているのかということです。無農薬の安心安全、顔の見える野菜を地元の人達が子どもたちに届けてくれていますという話がコメントとして出てきます。それを考えたときに、子どもたちにどういう食材を提供することが安心安全につながっていくかを考えたりすると、自分たちが安心安全な食材を口にしていないと不安に駆られたりします。市長自身がこういう状態が将来の茅野市に必要なというビジョンを具体的に伝えていただければと思います。

会長

沢山の具体例を出していただきました。地域で支え合うことにもつながりますし、安心安全でいうと地域の自主防災組織といった地域の力が絶対に今以上に必要になってくると思います。区・自治会単位での支え合うしくみは福祉であり、子育てであったり、防災であったりします。茅野市では区・自治会がしっかりと運営されていますが、その中で1歩2歩踏み込んだ支え合いのしくみが必要になってきます。災害に強いまちづくりのハード面での整備ということもあります。それは行政でやるとして、本当に災害が起きたときにいろいろな取り組みができるのは区・自治会です。地域での高齢者支援についてもそういう単位で行っています。どんな子どもを育てたいのかという時に、そう簡単にはへこたれない、人をしっかりと労われるということがありますが、そういうことを教えられるのが区・自治会だと思います。それぞれの区・自治会にある公民館を活用して、より身近なコミュニティを構築したいと思います。この10年間でそれができていればその先もできるし、できないと厳しい社会になると思います。それを作っていくのはあらゆる主体が参画する、協働できる社会でなければならないと思います。

委員

災害時に支え合う自主防災ということはわかりますが、それはソフト面になると思います。自分たちで自分たちの地域を支え合うということです。市長としてはどういう状態が支え合う状態なのか、災害が起きたときに隣のおじいさんお婆さんを背負って逃げるとか、それを住民に指導していくとか。お年寄りが元気で快活に暮らせるように考えたときに、100歳になるまで仕事ができることが明るく元気な状態というのか、その辺の考え方で行政や市民の動き方が変わってきます。

会長

ピンピンコロリも明るく幸せな人生かもしれませんし、いくつになっても元気でいられれば幸せかと思います。私としては人とのコミュニケーションがあるかどうかだと思います。災害が起きた時もそうですが、それ以前に隣近所でコミュニケーションが行われているかという、結構行われていないと思います。昔は当たり前であったことですが、現在は便利な世の中になって、人の力を借りなくても一定の生活ができるという中で、あまり関わり合いをもたなくなってきました。それをもう一度支え合いということで、福祉の面であったり、子育ての面であったり、防災の面であったり、いろいろな面で最低限の関係がつくれているかだろうと思います。

副会長

言葉の問題ではありますが、「パートナーシップ」と「協働」という言葉が両

	<p>方使われています。この辺で統一しなければならぬのではないのでしょうか。あるときは協働、あるときはパートナーシップと言いますが、定義が違うと言出すときりがなくて、私は「協働」も「パートナーシップ」も基本的には同じだと思います。これを定義はこうだと言出すと非常に混乱してきます。市長としてはどちらの言葉が好きですか。</p>
<p>会長</p>	<p>パートナーシップまちづくりはスタートしたときからある言葉で、提言する実践集団の皆さんが行政と一緒にまちづくりを進めてきました。その象徴が「パートナーシップのまちづくり」だと思っています。一般的に言うパートナーシップのまちづくりです。第2ステージで取り組んでいるものはちょっと趣が違っていると思っています。これからの10年、パートナーシップのまちづくりをこういう想いで進めていこうということをこの会の中で意識の共有や方向付けができればそれはそれで良いと思います。答えになっていませんが、どちらかではなく両方使い分けているところはあります。</p>
<p>副会長</p>	<p>インターネットで調べると「パートナーシップ」という言葉を使っているところは少ないので、むしろ独特なパートナーシップを行っている茅野市は良いと思います。個人的な感想です。</p>
<p>会長</p>	<p>まだ意見があるかと思いますが、この後に議論してもらっても構いませんのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは本題である③に入りたいと思います。今までの部会での議論を踏まえて、目指すは住んでいて面白い、元気なまちにすることです。これからの進行は田中課長と矢嶋所長になります。説明をお願いします。</p>
<p>田中パートナーシップのまちづくり推進課長</p>	<p>これからグループワークをお願いするわけですが、何でこんなときにグループワークなのかという意見をいただきました。それについて説明したいと思います。本日の会議資料や会議の進め方について、分野別の代表の方と検討を進めてきました。当初の案では今までの議論をドキュメント化（文書化）し、まとめの案を作ってそれについて皆さんで議論してもらおうということを考えました。副会長から出たように協働とパートナーシップの違いなどが深掘りできていない中で、文書にまとめるのは現段階では難しいということになりました。皆さん全員の想いを共有して成果とする方向で検討していきたいと思っています。全体ワークで皆さんの想いを共有することを想定しました。全体ワークではファシリテーション力が大切になります。とても職員ではできませんので、福島市民活動参加にお願いしたわけですが急遽来れなくなってしまいました。全体ワークではなく、小グループであれば職員でも進めていけるということで急遽このようなグループワークを行うことになりました。その部分についてご理解とご協力をいただきたいと思います。これからの進行につきましては玉川CCの矢嶋所長が行います。</p>
<p>玉川CC 矢嶋所長</p>	<p>資料3について説明 (グループワーク)</p>

玉川CC矢嶋 所長	皆さんお疲れ様でした。大変和やかな雰囲気グループワークをしていただけたと思います。これからグループ発表をして共有の時間に移りたいと思います。何分時間がオーバーしております、方針や進め方を変更したいと思います。先ほどは発表していただいたものを板書してもらおうという話でしたが、とてもではないが書ききれない状態です。グループごとに発表していただいて、それを聞くことで共有ということにしたいと思います。解説はしないでください、読み上げるだけで結構です。
委員	3班です。読み上げるだけということなので読みます。まずパートナーシップのまちづくりを進める上で大切なことということで、土台になる部分として「丁寧な合意形成をする」、「対話を大切にする」、「パートナー（相手）を尊重する」ということです。それを基に展開していくという部分になると、広がりをもたせるために「支える・支えられる」ということ、市民主導・行政支援という条例のこと等もありましたが、「絶えずその理念を確認していけば良い」のではないかと、「目的や理念を共有する」、「情報の共有」、「組織の活性化を図る」これは活動の広がりを大切にするということにも近いですが若返りであったり活動者を増やすということ。あとは「分野別と地域との連携」ということが出ました。
玉川CC矢嶋 所長	ありがとうございました。模範的な発表でした。こんな感じで短時間でお願いします。5班の池上さんお願いします。
委員	そもそも何のためにやるのかを明確にしなければなりません。職員のスキルアップ、対話を大事にして情報を共有する、皆のモチベーションをアップしてやらされ感なくし当事者意識をもってやる、人材の発掘をする、運協のPRをする。端的に言うとそんなところですよ。
玉川CC矢嶋 所長	次は2班お願いします。
委員	目指すビジョンを共有する、情報を共有する、対等な関係を構築する、モチベーションを上げる活動が大切、コーディネーターを育成する、PDCAサイクルを回していく、まちづくりへの意識の違いを埋める方法を考える、世代交代を進める、パートナーシップのまちづくりの周知を続ける、コミュニケーションづくりの強化、パートナーシップと協働の違いを明確にする、パートナーシップの負荷を減らすことを考える、読み上げました。
玉川CC矢嶋 所長	読み上げを聞いただけで「そういう話が出たね」と思いますか。頷いてくれてるので大丈夫だと思います。次に4班お願いします。
委員	地域の情報を共有する、これは運協の役員がということで聞いていただければと思います。市民への情報発信ですが、地区に運協活動を知ってもらう、運協で具体的に何をやっているのか地区の方に知っていただくということです。市でもこの地区ではこんなことをやった、こんなおもしろいことがあります、のようなことを知らせてほしいという希望があります。人材を育成し発掘する、同じ人間がやっけてはどうかという意味合いがあります。運協に参加しやすい環境づくり、これも情報共有に含まれますがなるべく垣根をなくしたいという

	<p>ことです。役員任期の複数年化、これについては特に何も言いません。運協と区、この問題については役割分担も含めてしっかりとアピールしていかなければならないと思います。コーディネーター役になる、職員の方の立場でコーディネーターをやってもらうことで初めて動くのではないかという意味合いです。</p>
玉川CC矢嶋 所長 委員	<p>次に1班お願いします。</p> <p>サブタイトルは「明るい未来をえがく」です。市民の意思を尊重する、市民と行政が十分なコミュニケーションを図る、情報を理解し共有する、合意を形成する、市民参加の意識を高める、市民が責任を持ち自立する、市民の多様性の理解、パートナーシップのまちづくりを理解する、互いの立場を尊重する、職員の事務引継ぎが大切、若者の参加、これらのことをスピード感をもって勧める、ということが1班からは出ました。</p>
玉川CC矢嶋 所長 委員	<p>ありがとうございました。最後に6班の藤森さんお願いします。</p> <p>最初の見出しは「運協のスタンスを共有する」です。次に人材育成が大切ということで、いろんな人材育成が運協や地区の活動に非常に良い効果をもたらすということになります。運協活動の充実や各部会の活動の充実によって行われるということで、意見が出ました。コミュニティと地区役員、運協役員の連携強化、運協間の情報交換が非常に大事ではないかと思います。各地区で活動の仕方に違いがあるので、地区主体の活動を推進した方が良いという意見が出ました。</p>
玉川CC矢嶋 所長	<p>皆さんお疲れ様でした。共有していただきましたか。聞いていると「そうだな」と思い喋りたくなってきます。その時間をとりたいところですが、市長さんの方からお願いします。</p>
会長	<p>お題の方にはこれを見て5次総にどう生かしていくかということがありましたが、今日はそこまではいかないかと思います。パートナーシップのまちづくりのこと、しっかりとコミュニケーションを図って合意形成をする、情報共有をしっかりとしていくということは基本的な部分であると思います。これはパートナーシップのまちづくりだけではなく、それぞれいろんな事業を進めていく上での基本中の基本であり、ここさえできれば後の展開はスムーズにいくと思います。パートナーシップのことを考えれば、「パートナーシップの負荷を減らすことを考える」とありますがこれから大事になってくることだと思います。パートナーシップのまちづくりのレベルを落とすことなく、このことをしっかりと考えていかないと長続きしないと思います。運協の方では「人材の育成」という部分がありました。どういう形でやっていくか、具体的な取組みがあると思います。情報を共有する、活動をPRするというのも大事で、そこから見えてくるのは、具体的な活動をそれぞれの運協・地区でいかにして展開していくか、それが一番地域民にとって運協を理解できる近道かと思います。こうしたことにしっかりと向き合っていていきたいです。お疲れ様でした。</p>
玉川CC矢嶋 所長	<p>今日は本当に大切なことを出していただきました。これを来年以降につなげていくということだと思います。それではここで司会を市長さんの方に戻した</p>

	<p>いと思います。</p>
会長	<p>大変お疲れ様でした。④今後に向けてということで、先程も少しお話ししました。今日の会議をしっかりとまとめまして、行政経営計画の中にそれを反映させていかなければならないと思います。事務局からこの後の取り組みについて説明をお願いします。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>今日の会議を踏まえまして、各行政計画にエッセンスを盛り込むような形でまとめていきたいと思います。案を作りまして、皆さんと協議する場を設けたいと思います。その日程ですが、1月16日(火)でお願いします。市長さんの予定が決まっておりますその日しか予定がとれません。ご予約いただければと思います。その中で内容を確認していただくこと、あとこれからの会議の進め方をどうするか、今想いを共有していただいたことを行動に移すステップに入ってくると思います。議論は並行して進めますが、やはり行動に移さないといつまでたっても変わらないということになりますので、行動に移しながら、これからの会議をどういう風にしていくかということも協議していただける場になれば良いかと思います。</p>
会長	<p>次回は1月16日(火)ということで、協議内容をどうまとめるか、事務局、副会長と話をしてお報告させていただきたいと思います。①～④を通して何かご発言はありますか。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>それでは(2)その他ということで事務局からお願いします。</p> <p>(事務局からの連絡事項なし)</p>
会長	<p>皆さんの方から何かご発言はありますか。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>それでは司会を事務局にお返しします。</p>
田中パートナーシップのまちづくり推進課長	<p>皆さん今日は遅くまで大変お疲れ様でした。第6回パートナーシップのまちづくり推進会議を終了とします。また来年もよろしくお願いします。</p> <p>(閉会 午後8:50)</p>